



医療法人社団げんき会あゆみクリニック院長

藤川万規子

誰でも診る、どこでも診る
地域一番のかかりつけ医として日々奮闘

研修医時代から幅広く学び、どんな症状にもたじろぐことなく対応する
心強い「町のお医者さん」が、あゆみクリニックの藤川万規子院長だ。
1日100人の外来をこなし、在宅でも40人の患者を受けもつ。
赤ちゃんからお年寄りまで、診療所でも居宅でも、温かく見守る。

関口宏紀撮影
photo by Hiroki Sekiguchi

在宅医療の羅針盤 / うつ病患者への対応法 / 院内連絡ツール

今日と明日の開業医をサポートする
最新クリニック総合情報誌

CLINIC BAMBOO **4** APR. 2010 VOL.348 価格 1,020円

【トピックス】2010年度診療報酬改定のポイント解説

特集 “経営刷新”に舵をとれ

在宅医療の羅針盤

【第2特集】
かかりつけ医も知っておきたい
うつ病患者への最新対応法

【第3特集】
受付・診療スタッフ間の壁をなくす
「院内連絡ツール」徹底研究

新連載 地域を歩く
利根保健医療圏(埼玉県)

THE FAMILY DOCTOR
藤川万規子
医療法人社団げんき会
あゆみクリニック院長

この冊子は「CLINIC BAMBOO VOL.348」に掲載された特集記事を抜粋した物です。



医療法人社団げんき会 あゆみクリニック

〒344-0023 埼玉県春日部市大枝400-4 TEL.048-731-3283 <http://www.ayumi-clinic.com/>



ふじかわ・まきこ

千葉県市川市出身
 1985年 東邦大学医学部卒業
 1985年 淀川キリスト教病院研修医
 1991年 慶和病院勤務
 2000年 あゆみクリニック開業
資格
 日本医師会認定産業医
 日本臨床内科医会専門医
 日本糖尿病協会療養指導医
 ケアマネジャー

PERSONAL DATA

趣味 映画鑑賞、美術鑑賞、旅行

CLINIC DATA



所在地 埼玉県春日部市大枝400-4
 Tel: 048-731-3283
 http://www.ayumi-clinic.com/
 診療内容: 内科、糖尿病内科、脂質代謝内科、漢方内科、女性内科、老人内科、小児科、小児皮膚科、アレルギー科、老年精神科



診療の合間には世間話。藤川院長の頭の中には患者の家族構成までインプットされている



診療所オリジナルのジャンパー。鮮やかな赤色は遠くからでも一目でわかる



有料老人ホームでの診療も毎週火曜日に行う。診るのは、認知症のある程度重症度の高い人ばかりだ



「はい、今月です」と患者に手渡すのは「あゆみクリニック通信」。月に1回発行しているニュースレターだ



血圧を測り、様子に変化がないかを確認する



小さな子どもからお年寄りまで、外来にはさまざまな年齢層の患者が訪れる



威圧感を与えず身近に感じてもらえるよう、Tシャツやトレーナーにエプロン姿で診療を行う。開業当初からの心がけだ

吸器療法、バルーンや胃腸の交換など、病棟ですることは在宅でも一通りやれます。高齢化により通院の困難な患者さんが増えてきており、今では毎週火曜日の11時から18時まで在宅医療を行い、個人宅と施設を合わせて40人の患者さんを診ています。

地域のかかりつけ医として、患者さんとそのご家族が人生の最期をいかにいい形で迎えることができるかが大切なことだと痛切に感じていますので、ターミナルについて最大限のお手伝いができるように心がけています。

また、当院では6人の管理栄養士をスタッフとして雇用し、繁忙期を除き月1回のペースで訪問栄養指導も行っています。外来より点数が高いというメリットもありますが、食生活が患者さんの心身

の健康維持や管理に重要だと考えているからです。最初に訪問栄養指導をする時発表した時は「そこまでやるんですか?」と、反発がありました。ただ、2回3回と続けるうちに楽しくなってきたらしく、今では「次はいつやるんですか?」と管理栄養士たちのほうから聞いてくるように……(笑)。患者さんも、特に一人暮らしの方は管理栄養士と一緒に料理をつくる時間が楽しいようで、心待ちにしてくれています。

規模の拡大は考えていません。できる範囲で地域に貢献し、みんなを明るく元気にできればと思っています。あとはこの地域に住む1人の女性として、また仕事と子育てをしっかりと両立した女性医師として、1つのお手本になればと、日々頑張っています。

生まれて間もない新生児から100歳を超えるお年寄りまで地域の方々が気軽に相談できる町医者を目指し、開業しました。病院勤務時代、医師と患者さんの間に見えない心の壁があるように感じていたので、当院では白衣を着ません。夏はTシャツ、冬はトレーナー、そこにエプロンをかけるのが、あゆみクリニック流。患者さんにとって身近な存在になれるよう、開業当初からこのスタイルで診療を行っています。

なんでも診ることができた、やはり開業医であった父親の背中が私の描く医師像だったので、卒後はローテート研修を受けました。糖尿病やアトピー性皮膚炎などの

勤務医時代はさまざまな診療科をローテーションした後、内科医として多くの患者さんを病棟で診てきました。開業すぐの頃から在宅医療を行っています。いわば病棟が患者さんのお宅に移っただけで、特に難しさは感じませんでした。在宅酸素療法や在宅人工呼

ゆりかごから墓場まで
 自分の人生と地域のつながりに
 喜びを感じる

2000年にあゆみクリニックを開業した藤川万規子院長。その名の由来は地域とともに「あゆみ」続けていきたい、という思いから。外来では赤ちゃんから高齢者まで、幅広い年代の患者が訪れる。

得意分野をもちつつ、プライマリケアをベースにどんな疾患でもまず一度は診ることをモットーにしています。外来には小さなお子さんからお年寄りまで、幅広い年齢の患者さんが来院されます。幼い頃から診ていた患者さんが成長し、自分の子どもを診療所に連れてきた時は、「自分の人生がこの地域とつながっているなあ」と感じてうれしくなりますね。

病棟の延長にあった在宅医療
 「身体」を診るだけでなく
 「心」も包み込む

藤川院長は開業当初から在宅医療に取り組んでいる。患者の生活背景を把握できることにやりがいを感じ、心のケアの二環として訪問栄養指導もしている。